

初開催！名作を耳で楽しむ ひとり語りの会

ひとり語りの会～中島敦『名人伝』を聴く～(中央図書館主催)は2月25日、同館で行われました。同会は、耳で聴く読書といわれる「語り」に親んでもらおうと初めて開催されました。

はじめに、黒沢尻北高校放送部の生徒6人が1作品ずつ朗読。その後、「語りの会風楽堂^{ふうがくどう}」主宰の藤澤陽子さんが『名人伝』を含む2作品を披露しました。藤澤さんの臨場感あふれる語り口に、訪れた市民など約40人が聞き入りました。

身振り手振りを交えて語りを披露する藤澤さん



地域の課題解決に向けて取り組んだ内容を発表する生徒たち

若い視点で課題発見

高校生地域探究&まち育て卒論発表会

きたかみ高校生地域探究&まち育て卒論発表会(市・NPO法人いわてNPO-NETサポート主催)は2月24日、生涯学習センターで開催されました。

弘前大学住居学研究室の学生がまち育てに関する研究の成果を発表したほか、黒沢尻北高校1年生が、生徒目線で見つけた地域の課題に対する解決策をグループごとに発表。また、黒沢尻工業高校3年生による、エネルギーを学ぶ出前授業の実践発表などが行われ、参加者は発表に耳を傾けていました。

皆で作上げた作品 第41回北上市民劇場

第41回北上市民劇場(一般財団法人北上市文化創造、北上市民劇場を盛り上げる会やっぺし主催)は2月24日・25日の両日、さくらホールで開催されました。

今回の題目「I CANフライ」の脚本は、出演者などが話し合い作り上げたもの。北上市がどんなところかを改めて考え、家族の絆や地域の問題などを共感できるような作品に仕上がりました。物語の舞台は近未来の北上市。「苗字に『高橋』が多い」など身近に感じる内容が織り交ぜられ、来場者を魅了しました。

劇の一幕。北上コロッケが題材に使われました



舞を披露する北藤根鬼剣舞。地区住民など多くの来場者が見入っていました

春の訪れを感じて ざぜん草まつり

ざぜん草まつり(藤根自治振興会主催)は4日、ざぜん草の里と藤根地区交流センターなどで開催されました。ザゼンソウの見頃に合わせ、18年度から開催されている同まつり。来場者は雪下から顔を出すザゼンソウを興味深そうに眺めていました。

また、まつりでは芸能公演や餅まきなどを実施。アンケート抽選会も行われ、1等の飲食店食事券を獲得した小原善明さん(71歳・藤根)は「家族で食事に行きたい」と笑顔を見せていました。

北上のものづくりを学ぶ 産業観光ツアー

産業観光ツアーは8日と15日の両日、市内で行われました。同ツアーは事業所を見学し、製品を作る人の思いやものづくりの面白さを感じてもらおうと、市が主催しています。今回は市内外から2日間で25人が参加。8日は市内の事業所3カ所と北上市産業支援センター、15日は事業所3カ所と鬼の館をそれぞれ見学し、市を支える産業について理解を深めました。8日に参加した菊池信子さん(鍛冶町)は「施設内を実際に見学できて楽しい」と話していました。

北上市産業支援センターの自動車分解展示を見学する参加者



ろうそくで灯された「3・11」の文字。地域住民が集まり、犠牲者を追悼しました

震災を忘れない 夢灯りinふたご

夢灯りinふたご(二子地域計画推進委員会教育交流部会主催)は11日、二子町の鳥喰自治会館で行われました。同催しは、東日本大震災の風化防止や犠牲者の供養、早期復興の祈念を目的に24年から実施。毎年、町内の一地域が会場となっています。

7年目となる今回は鳥喰地域で行われ、地域住民など約40人が参加。ろうそくで「3.11」の文字を灯したほか、鳥喰岳神楽による権現舞が奉納され、犠牲者を追悼しました。

宝くじ助成で地域を元気に

沢目公民館を新築

平沢地区の沢目公民館は平成29年度コミュニティ助成事業(宝くじ助成)を活用し、建物を新築しました。これまで、昭和初期に建築された建物を増改築して使用していた同公民館。新築により老朽化や衛生面の問題が解消されました。

4日には落成式が行われ、地域住民など約80人が参加。同公民館の小菅凌司館長が「新築は地区民の希望だった。有効活用し笑いの絶えない公民館にする」とあいさつしました。

新築された沢目公民館。ホールや和室、調理室などが備えられています



「さらきの里」を披露する児童とウタカラユニットの皆さん

魅力発信DVD&「さらきの里」CD完成

更木町振興協議会は、平成29年度コミュニティ助成事業(宝くじ助成)を活用し、同町の史跡や名所、行事などの魅力をまとめたDVDとイメージソング「さらきの里」のCDを制作しました。

10日には完成上映会が行われ、来場者が歌と映像を鑑賞。また、「さらきの里」を作詞・作曲したNPO法人東北岩手応援チャンネルの出淵晴彦さんの講演や、更木小学校の児童と音楽グループ「ウタカラユニット」による合唱が行われ、完成に花を添えました。